考古学地理情報分析計画シート（20250623第1版）

タイトル　立川１遺跡における出土遺物分布の空間的様相

対象地域・範囲　北海道磯谷郡蘭越町立川１遺跡

時代・時期　旧石器時代終末期〜縄文時代草創期？

研究上の問い（**太字**＝本講義にて取り組みたい内容）　**①器種・石材といった属性を区分した出土遺物分布図の作成と、それを用いた分布傾向を検討する。②出土遺物の平面・垂直分布から、蓋然性の高い石器原位置を推定する。また、土壌撹乱作用（植物・生物による撹乱作用、凍結融解作用）のサイズ・重量ごとの影響を検討する。**③遺物分布の傾斜の様子と地表面の現地形の対比から、当時の生活面の傾斜や遺跡形成後の石器の移動の有無について推測する。

データセット

・主な分析対象　遺物台帳データ

・データソース　立川１遺跡2022年度以降発掘調査取得データ（１〜７次調査）、同調査区座標データ

・データ整形　不要情報の整理

地理情報解析対象

・ラスタデータ

・ベクタデータ

解析手法

①属性を区別した分布図の作成

・QGIS上で遺物座標データを表示（平面分布：XY、垂直分布：XZ・YZ）

・各属性を主計し、シンボロジ設定により地物を区分する：器種（地物のシンボルで識別）、石材（地物の色で識別）

②原位置の推定と撹乱作用の検討

・①で作成した平面・垂直分布のカーネル密度推定を行い、石器集中部部内のさらに集中している箇所をヒートマップで可視化する。

・遺物データを重量／サイズごとに集計し、シンボロジ設定で識別する。その後、垂直分布上での集中箇所からの距離に応じた変化を検討する

図化

・分布図

・その他の解析図